

言葉による深い学びを共に創りあげる学習活動の展開

実践者 細川 美保、兵頭 宣彦、丸山 佑樹
愛媛大学研究パートナー 三浦 和尚

第1章 はじめに

私たちは、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等の諸問題を抱えながら、変化の激しい時代を生きている。このような時代だからこそ、学校教育では、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極めて知識の概念的な理解を深めたり情報を再構成したりすること、複雑な状況変化に合わせて目的を再構築することが求められている。

そこで国語科では、言葉を通じた理解や表現を大切にしながら、学習課題を解決していくことで「深い学び」を実現することを目指す。そのためには、生徒の課題意識を大切にしたい学習課題の設定や展開の工夫、生徒の主体的な学びにつながる学習評価の工夫についての実践研究が必要であると考え、本研究主題を設定した。

第2章 研究の実際

研究（その1）

言葉による見方・考え方を働かせて、 主体的に課題を設定し、解決する学習展開の工夫

（実践者）細川 美保

1 研究テーマ設定の理由

人は、言葉で考え、表現する。また、言葉によって自分や他者、物事を理解している。しかし、それらを理解するための経験や既存の知識は人によって異なる。そのため、同じ言葉であっても、それに対する意味付けや思いも人によって異なる。一つ一つの言葉への概念が違っているのである。国語科の学習の中で新たな作品と出会った際も、作者と、読者である生徒との経験や既存の知識の違いから、生徒は「この言葉をどう解釈すればよいのか」「なぜこの言葉とこの言葉を並立にするのか」「この事象と表現にずれを感じるが、なぜこの表現を使ったのか」等多様な疑問を持つ。

そこで、国語科の学習では、言葉そのものと、他者と、自己と対話し、言葉に関する課題を追究する授業を展開したい。生徒が疑問を持ったり、興味を持ったりしたことを課題に設定し、言葉の多様な意味に基づいて、言葉で思考し、それを使って自分の思いを表現したり他者の意見を理解したりと、多様な立場の人と対話する中で、新たな読みを共に発見したり、創りあげたりすることによって、作品の言葉を自分の新たな言葉として実感し、内在化させることができると考える。

また、生徒の課題意識や目的意識を大切に、主体的な追究者としての学習過程を重視することが、社会の中で自分たちが置かれている状況を踏まえ、様々な社会的課題を主体的に解決することにもつながるのではないかと考える。さらに、それを言葉に焦点化することで、言葉の遣い手として、言葉を遣うことを楽しみ、豊かな言語生活を送るきっかけとなるのではないかと考える。以上の理由から、上記の研究テーマを設定した。

2 研究の内容及び方法

(1) 生徒の課題意識や目的意識を大切にした学習課題の設定

主体的に対話し、仲間と共に学びを深めるために、言葉や文章に対する生徒の課題意識や目的意識を大切にした学習課題の設定を行う。また、その課題が国語の学習課題として適しているのか、その課題は言葉を学習する上で意味のあるものかについて生徒自身が検討する。文章等を読み深めるために、どの言葉、どの文章に注目すればよいかを学習者個々で考え、その課題について自分自身がまずは答えを導き出す。その後、学級全体でその課題について考えていく。自身の意見と照らし合わせながら仲間の意見を聴くことで、自分の意見に自信を持ったり、多面的に課題を見つめ直したりすることができ、考えをより深めることができる。

(2) パフォーマンス課題の設定とそれに迫る学習計画の設定の工夫

実生活の言語活動を振り返り、言葉の使い手として新たな視点や考えを持てるようなパフォーマンス課題を設定する。また、教師側から目標と単元のゴール、本質的な問いを提示し、パフォーマンス課題に迫るためにどのような課題を解決しなければならないか、という学習計画も生徒自身に考えさせ、学習調整力を養いたいと考えている。

(3) 協働で学びを深める学習活動の工夫

自分が伝えたいことを明確に伝え、相手の伝えたいことを的確に把握すること、互いに尊重しながら真摯な態度で聴くことが、深い学びを共に創ることにつながると考える。話し手は、自分の立場や考えが明確になるよう、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫し、聞き手は話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることなどを意識させる。思考する場としての書く活動を連動させることで、効果的に読みの力をはぐくむことができるような学習指導の展開を探る。また、協働の一つとして、スパイダー討論(アレキス・ウギンズ 提唱)にヒントを得た「発言つながりマップ」を使用し、「学級全体」で課題を解決しようとしているか、仲間の意見を受け入れ、そこから自分たちの考えを発展・深化させられているかを見取り、主体的・対話的に学びを深化させるよう工夫する。それを通して、仲間と共に課題解決することの楽しさや有効性を改めて感じさせたい。

3 研究の実際

(1) 指導の計画

ア 単元名

「言葉」とは何かー『帰途』ー (第2学年)

イ 教材

本単元で扱う教材は田村隆一の『帰途』である。題名は『帰途』だが、その題名を想起させる言葉として直接出てくるのは最終連、最終行の「たったひとりで帰ってくる」のみである。この詩は「言葉なんかおぼえるんじゃなかった」で始まり、「あなた」「きみ」「ぼく」という言葉に加え「涙」「血」「夕焼けのひびき」等、抽象的、比喩的な表現が多くを占めている。そのため、表現されていることを読み取るためには、言葉そのものが持つ意味に注目し、言葉と言葉をどう関係付けるかが大きなポイントとなる。これまでの自分の知識や経験を反映させ、仲間とお互いの考えを伝え合いながら読み深めるところにおもしろさを感じることができる教材である。

ウ 単元目標

○ 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。

〔知識及び技能〕(2)ア

○ 複数の情報を整理しながら言葉の意味について考え、内容を解釈することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C 読むこと(1)イ

○言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、
思いや考えを伝えようとする。 「学びに向かう力、人間性等」

エ 重点目標

<本質的な問い>

言葉とは、どのようなものなのだろうか。

<永続的な理解>

人は、言葉で考え、表現する。また、言葉によって自分や他者、物事を理解している。言葉には意味があり、それによって様々な関係や世界を認識する。しかし、そのことが当たり前の世界で生きている私たちは、言葉そのものに目を向けることはあまりない。

詩の言葉は、短く、厳選され、省略も多く、さらに多様な表現技法が使用されている。詩の学習を通して言葉そのものに目を向け、言葉が持つ意味について他者と多様な意見を交流しつつ解釈に向かうという学習を行う中で、言葉について考えることができる。

オ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。 (2)ア	複数の情報を整理しながら言葉の意味について考え、内容を解釈している。 (C1)イ	進んで詩の内容を解釈し、学習課題に沿って自分の考えを表わそうとしている。

カ 評価の方法

パフォーマンス課題	その他の評価方法
現在、日常生活のみならず学校生活の中でも ICT を使ったコミュニケーションが増えてきています。簡潔でわかりやすい表現が求められるとともに、言葉によるトラブルも多くなっています。では、そもそも、「言葉」とは何なのでしょう。『帰途』（田村 隆一）に「言葉なんかおぼえるんじゃないかった」とありますが、作者が「言葉」をどう捉え、なぜ「言葉なんかおぼえるんじゃないかった」と考えたのか、第1連と第5連それぞれの「言葉なんかおぼえるんじゃないかった」を解釈した上で、「言葉とは」をテーマに小論文を書き、今後の生活の上で言葉の使い手として考えてほしいことを仲間に提案しましょう。	○ワークシートへの記述 ○観察

キ パフォーマンス課題についてのループリック

	思考・判断・表現
A	複数の言葉を結び付けたり、各場面や情景等の描写とを結び付けたりすることによって、新たな意味付けを行い、多様な解釈をしている。また、言葉の使い手として自分の考えを仲間に提案している。
B	複数の場面や情景等を表すいくつかの描写に着目して、多様な解釈をしている。また、言葉の使い手として自分の考えを仲間に提案している。
C	ある場面の心情や行動、情景等を表す描写に着目して、自分なりの解釈をしている。

ク 指導計画（全10時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準（評価方法）
2	・パフォーマンス課題を知り、『帰途』の疑問や課題解決の順番について話し合い、課題と解決順を決定することで単元の見通しを持つ。	態 知		・課題解決に向けて、学習の見通しを持とうとする。 (ワークシート・観察) ・詩の内容を理解するために必要な課題を設定することができる。 (観察)
3～7 本時 7	・自分たちが立てた課題について三角ロジックによる『帰途』の読解をし、言葉の意味や言葉相互のつながりを吟味し、内容を解釈する。	態 思	○	・課題解決に向け積極的に話し合おうとする。(観察) ①「あなた」「きみ」「ぼく」の関係性について。 ②「美しい言葉に復讐され」とは。 ③「血」と「涙」の意味について。

				④「せい」ではなく「おかげ」と表現した意図。 ⑤「ぼく」は「どこ」から帰ってくるのか。 について、三角ロジックを用いて読み取っている。 (ワークシート・観察)
8・9	・パフォーマンス課題に取り組む。	思	○	・パフォーマンス評価
10	・課題を読み合い、他者の考えに触れる中で、詩の解釈や言葉について考える。	思 態	○ ○	・仲間が書いた文章を読み、作者のものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広げるとともに、言葉について自分の意見を持つことができている。 (ワークシート)

(2) 指導の実際（7／10時間）

ア 主題

「ぼく」は「どこ」から「どこ」へ帰ってくるのか。

イ ねらい

『帰途』という題名や詩の中に表れている作者のものの見方や考え方を理解し、自分の知識や経験を踏まえるとともに、仲間の意見を取り入れながら、自分の考えをまとめることができる。

ウ 展開

学習課題を意識して詩を音読し、課題解決を行った。

学習活動（形態）	○教師の働きかけ・生徒の反応	○指導の工夫◎評価基準（評価方法）
3 学習課題について考え、詩を読み深めた。（個人） ↓ （小集団） ↓ （全体） ↓ （個人）	○『帰途』とは何の帰り道なのか。「どこ」から帰ってくるのか、他の詩の言葉や詩の特徴などを根拠に考えた。 ・「血のなか」とは「言葉があるがゆえに苦しむ世界」だと考えるから、「苦しまなくても良い、言葉に意味のない世界」から「言葉のある世界」に帰ってくるのだと思う。 ・「血」も「涙」も言葉によって傷つけられたことの象徴だと考える。言葉があることは苦しいが、「涙のなかに立ちどま」れる良さもあるから「言葉のある世界」に帰るのだと考える。 ・前の授業で「一連から五連までで『ぼく』は変化している」という意見があった。二連の内容を「言葉があることによる苦しみから解放されたいぼく」と捉えたので、その「解放されたいと思っていたぼく」から「現実のぼく」に帰ってきたのだと考える。 ○自分の意見とみんなの意見を比較しながら、最終的な自分の意見をまとめた。	○全体で詩を読み深めるために、自分の発言を仲間の発言につなげるよう促し、発言で出てきた詩の言葉を関連付けさせた。 ○話し合いを通して各自の読取が更に深まるように、根拠を基に主張するよう助言した。曖昧な部分や納得いかない部分に対しては話し合いの中で質問させた。 ◎詩中の言葉や表現を根拠に読み取ったことを伝え合い、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。 (観察・ワークシート記述)

課題について話し合った後、「発言つながりマップ」を提示し、学級全体で主体的に学習に取り組んだかどうかを5段階で生徒に評価させた。

(3) 生徒の学びの実際

ア 生徒の課題意識や目的意識を大切に学習課題の設定

1時間目のワークシート(資料1)には、上段に疑問、下段に隣席生徒の回答が記されている。傍線を引いたり様々な書き込みを行ったりしながら、言葉のイメージ、言葉と言葉のつながり、言葉の遣い方の矛盾など「言葉」に注目し、思考の整理をしていることが分かる。この1時間を踏まえ、言葉について学ぶ上で国語科の課題として適切かどうかの話し合いを行った。

友だちの疑問に、自分なりの答えを書こう。	私・僕の疑問	詩	友だちからの回答
① どうして「言葉なんかおぼえるんじゃないか」と思っているの？ ② 「言葉のない世界」とはどんな世界？ ③ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ④ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ⑤ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ⑥ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ⑦ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ⑧ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ⑨ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ⑩ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ⑪ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ⑫ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ⑬ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ⑭ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ⑮ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ⑯ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ⑰ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ⑱ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ⑲ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ⑳ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㉑ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㉒ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㉓ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㉔ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㉕ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㉖ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㉗ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㉘ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㉙ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㉚ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㉛ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㉜ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㉝ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㉞ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㉟ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㊱ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㊲ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㊳ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㊴ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㊵ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㊶ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㊷ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㊸ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㊹ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㊺ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㊻ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㊼ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㊽ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㊾ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？ ㊿ 「言葉が意味にならないうち」ってどういうこと？			

資料1 第1時のワークシート

イ パフォーマンス課題の設定とそれに迫る学習計画の設定の工夫

① 言葉が意味にならないうち

② 言葉が意味にならないうち

③ 言葉が意味にならないうち

④ 言葉が意味にならないうち

⑤ 言葉が意味にならないうち

⑥ 言葉が意味にならないうち

⑦ 言葉が意味にならないうち

⑧ 言葉が意味にならないうち

⑨ 言葉が意味にならないうち

⑩ 言葉が意味にならないうち

⑪ 言葉が意味にならないうち

⑫ 言葉が意味にならないうち

⑬ 言葉が意味にならないうち

⑭ 言葉が意味にならないうち

⑮ 言葉が意味にならないうち

⑯ 言葉が意味にならないうち

⑰ 言葉が意味にならないうち

⑱ 言葉が意味にならないうち

⑲ 言葉が意味にならないうち

⑳ 言葉が意味にならないうち

㉑ 言葉が意味にならないうち

㉒ 言葉が意味にならないうち

㉓ 言葉が意味にならないうち

㉔ 言葉が意味にならないうち

㉕ 言葉が意味にならないうち

㉖ 言葉が意味にならないうち

㉗ 言葉が意味にならないうち

㉘ 言葉が意味にならないうち

㉙ 言葉が意味にならないうち

㉚ 言葉が意味にならないうち

㉛ 言葉が意味にならないうち

㉜ 言葉が意味にならないうち

㉝ 言葉が意味にならないうち

㉞ 言葉が意味にならないうち

㉟ 言葉が意味にならないうち

㊱ 言葉が意味にならないうち

㊲ 言葉が意味にならないうち

㊳ 言葉が意味にならないうち

㊴ 言葉が意味にならないうち

㊵ 言葉が意味にならないうち

㊶ 言葉が意味にならないうち

㊷ 言葉が意味にならないうち

㊸ 言葉が意味にならないうち

㊹ 言葉が意味にならないうち

㊺ 言葉が意味にならないうち

㊻ 言葉が意味にならないうち

㊼ 言葉が意味にならないうち

㊽ 言葉が意味にならないうち

㊾ 言葉が意味にならないうち

㊿ 言葉が意味にならないうち

① 言葉が意味にならないうち

② 言葉が意味にならないうち

③ 言葉が意味にならないうち

④ 言葉が意味にならないうち

⑤ 言葉が意味にならないうち

⑥ 言葉が意味にならないうち

⑦ 言葉が意味にならないうち

⑧ 言葉が意味にならないうち

⑨ 言葉が意味にならないうち

⑩ 言葉が意味にならないうち

⑪ 言葉が意味にならないうち

⑫ 言葉が意味にならないうち

⑬ 言葉が意味にならないうち

⑭ 言葉が意味にならないうち

⑮ 言葉が意味にならないうち

⑯ 言葉が意味にならないうち

⑰ 言葉が意味にならないうち

⑱ 言葉が意味にならないうち

⑲ 言葉が意味にならないうち

⑳ 言葉が意味にならないうち

㉑ 言葉が意味にならないうち

㉒ 言葉が意味にならないうち

㉓ 言葉が意味にならないうち

㉔ 言葉が意味にならないうち

㉕ 言葉が意味にならないうち

㉖ 言葉が意味にならないうち

㉗ 言葉が意味にならないうち

㉘ 言葉が意味にならないうち

㉙ 言葉が意味にならないうち

㉚ 言葉が意味にならないうち

㉛ 言葉が意味にならないうち

㉜ 言葉が意味にならないうち

㉝ 言葉が意味にならないうち

㉞ 言葉が意味にならないうち

㉟ 言葉が意味にならないうち

㊱ 言葉が意味にならないうち

㊲ 言葉が意味にならないうち

㊳ 言葉が意味にならないうち

㊴ 言葉が意味にならないうち

㊵ 言葉が意味にならないうち

㊶ 言葉が意味にならないうち

㊷ 言葉が意味にならないうち

㊸ 言葉が意味にならないうち

㊹ 言葉が意味にならないうち

㊺ 言葉が意味にならないうち

㊻ 言葉が意味にならないうち

㊼ 言葉が意味にならないうち

㊽ 言葉が意味にならないうち

㊾ 言葉が意味にならないうち

㊿ 言葉が意味にならないうち

資料2 本時のワークシート

本時ワークシートを示す(資料2)。パフォーマンス課題の解決に向けた最後の問いとして生徒が設定したのが本時の課題であった。ワークシートの学習課題にある「・」の部分、「どこからどこへ帰るの?」「最終行『ぼくはきみの血のなかにたったひとりで帰ってくる』を理解すれば答えが出る?」は、課題解決順を話し合った際に生徒から出た言葉であり、この段階で、どの言葉を根拠に考えていけばよいかを検討していることが分かる。また、本時の問いを解決するためには「言葉なんか覚えるんじゃないか」という第1連と第5連の言葉の解釈が必要であり、それはパフォーマンス課題にも直接つながると生徒は課題を設定する段階で考えており、そのことが本時のワークシートに表れている。生徒の思考の深まりと多様な視野から迫ることができるパフォーマンス課題を設定するよう心がけているが、本時の課題は、様々な視点から言葉を解釈し、それがパフォーマンス課題に生かされるものであった。

ウ 協働で学びを深める学習活動の工夫

学習課題の設定、課題解決の順番の決定、学習課題の解決など、毎時間学級全体で話し合いを行った。学習課題の解決に向かう時間には、学級全員が一つの輪になり、お互いの顔が見渡せる形

態を取った。「発言つながりマップ」も時間を重ねるごとに人と人とのつながりの線が増えていった。仲間と課題解決に向けて話す楽しさを味わうとともに、自分の意見と比較したり、批判的な意見を持ったりしながら、様々な視点を持って課題に臨んだ結果、(資料2)のようにワークシートへの書き込みの言葉がどんどん増えていった。

4 成果と課題

(1) 生徒の課題意識や目的意識を大切に学習課題の設定

パフォーマンス課題に向かうための学習課題であることを意識して、学習課題決定に向けての話し合いを行ったが、詩の言葉や全体像に触れなければ課題が適切かどうかを見極めることはできないため、その過程で自然と詩を読み深めていった。また、単元のゴールが明確であるため、目的に沿った話し合いができていた。話し合いの中で、言葉のつながりや構成、時制など多様な視点での意見が出され、言葉に注目することはもちろん、詩の全体像に自分たちの力で視点を広げられた点もよかった。他の題材で同様のことを行った際には、学習課題は違っても、最終的に同じような答えになったこともあったが、今回の学習課題設定については、それぞれ意義あるものだったと生徒達は単元終了時に判断した。

(2) パフォーマンス課題の設定とそれに迫る学習計画の設定の工夫

パフォーマンス課題では、詩を読解した内容と自分の言語生活を重ね合わせ、自省したり今後の言語生活や共生について考えたりと、自分の生き方に結び付けることができていた。特に今回は言葉そのものが題材だったため、比較的容易に実生活と結び付けることができていた。パフォーマンス課題に向け、学習課題をどの順番で解決していけばよいかを話し合う場面では、読みがより深まる順番にするために様々な視点からの意見が出て、合意形成にかなりの時間を割いた。単元後、課題解決の順番は適切であったと学級全体が評価した。「細部から全体へ」「パフォーマンス課題に遠いものから近いものへ」と課題設定をしていったのが適切だったという評価だった。

(3) 協働で学びを深める学習活動の工夫

個人(書く)→小集団→全体→個人(書く)の順で、思考を深めていった。全体の場で「発言つながりマップ」を取り入れ、仲間の意見と自分の意見がどのようにつながっているかを意識して発言させたことによって、意見の比較、対立、つながり、深化が今まで以上に見られるようになった。また、話し合いを重ねるごとに詩への理解を深めていく様子は、詩の謎を解き明かしていくようにも見られた。生徒たちはこの「発言つながりマップ」を有効と捉えたようで、単元学習後、学習委員の取組の一つとして学年全体で取り入れていた。

今回の題材においては、以上三つの取組は有効であったと考える。単元終了時に課題そのものと課題解決順について評価させたが、そのどちらも生徒自身満足のいくものであった。しかし、題材が魅力的だったが故に、一つの課題を解決する中で新たな疑問が出たり、詩の言葉に対する自分の思いや経験を生徒が熱く語ったりして、設定した以上に課題解決に時間がかかってしまったことが課題として挙げられる。今後も魅力的な題材の開発を行うとともに、生徒自身の力を引き出せるような取組を考え、授業実践をしていきたいと思う。

参考文献

- ・三浦和尚(2016)「国語教育実践の基底」三省堂
- ・三浦和尚(2002)「『読む』ことの再構築」三省堂
- ・西郷武彦(1991)「ものの見方・考え方 教育的認識論入門」明治図書
- ・アレキシス・ウィギンス(2018)「最高の授業 スパイダー討論が教室を変える」新評論